



VISION

The Brotherhood of St. Andrew Japan, Inc.

《幻がなければ民は墮落する》箴言29章18節



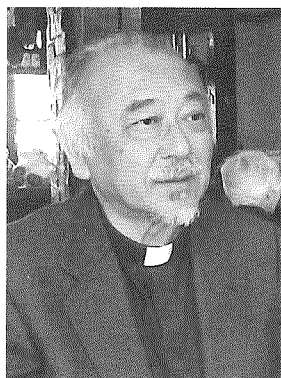
一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
日本聖公会東京教区会館内
3-6-18 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo
TEL 03-3436-4325 FAX 03-3432-1696
http://www.brotherhood-st-andrew-japan.org

BSA 会報《季刊発行》

発行人 足立征三郎
編集者 萩谷長生
印刷所 藤井印刷

聖餐式聖書日課 B年の光景

旭川聖マルコ教会 司祭 ミカエル 広谷 和文



コロナ禍の中で迎えた聖餐式聖書日課も半ばを過ぎようとしています。B年はマルコによる福音書を中心に読んでいく年です。その中に私が最もB年らしいと思う箇所があります。マルコによる福音書1章29〜34節です。

カファルナウムの会堂を出ると、すぐにイエスはその近くにあったペトロとその兄弟アンデレの家へ入って行かれました。その時、ペトロのしゅうとめが高い熱を出して苦しんでいたというのです。ペトロがイエスに従ったところ、彼にはすでに妻がいました。さらにペトロは、妻の母親を引き取り、一緒に暮らしていました。彼は一家の大黒柱であったのです。おそらくペトロはしゅうとめの病気のことを知っていました。彼は、このような心配事を抱えながら、イエスと行動を共にしていたのです。しかし、イエスはペトロが何も言わぬ前から、ペトロの心配をご存知でした。そして、自らペトロの家に行き、苦しんでいる彼女の手に取って癒されたのです。イエスがそばに行き、手を取って起こされると、熱は引き、彼女は一同に仕えた」と簡潔に記述されています。この出来事は、初代教会の人々にとって、いつまでも忘れることのできない思い出であったのでしよう。それによって彼らは「神が共におられ

る」という現実を深く実感したのです。

この日は安息日でした。この日の午前中イエスは会堂にいました。それからすぐにペトロの家に行き、癒されたのです。それから、安息日の午後であるということがわかります。午前であれ、午後であれ、安息日には一切の仕事が禁止されていたのです。ですから、安息日にペトロのしゅうとめを癒されたことは、明白な律法違反でした。イエスは、その日が安息日であることを知りながら病人を癒されたのです。それは熱心なユダヤ教徒の目から見れば、確信犯とも言うべき行動でした。彼らの怒りの大きさは想像に余りあるものがあります。「こんな男を放っておくなら、自分たちも律法違反を黙認した罪を犯すことになる、だからこの男を何とかしなければならぬ」と考えたことではないかと推察されます。イエスの十字架への歩みはもうこ

の時点で始まっていたと見なければなりません。

夕方になると人々は、病人や悪霊に取りつかれた者をイエスのところに連れてきました。夕闇の中で、必死に病気を癒すイエスと病人、彼らを取り囲む人々の姿が影絵のように浮かび上がってきました。まさにルオーの絵を思わせるような光景ではないでしょうか。そこに、虐げられている人々、律法学者たちから呪われた人々、様々な障がいや苦しんでいる人々、熱にうなされ、うめく人々の姿があります。悪霊に取りつかれて、獣のような叫びをあげている人々もいたに違いありません。まさに鬼気迫る光景です。

しかし、この不気味な墓場のような光景の中にイエスがいらっしゃいます。マルコはこのようにイエス、うめき苦しむ人々と共に生き、人々に手を差し伸べるイエスを繰り返し描きました。それは私たちが胸が感動で張り裂けそうになる、まさに「B年の光景」ではないでしょうか。そこに光があります。命があります。私たちがこの命に与りたいと思います。(日本聖公会神学院元校長)

信徒叢書、十四年ぶり発行!

『聖書の心と茶の心』

『ウィリアムズ主教に学ぶ―その生涯と同師をめぐる人々』

『神の教会・わたしたちの教会―信徒の奉仕職のヴィジョン』

伝道の書としての信徒叢書

BSAは、4月23日の理事会で、信徒叢書委員会が提出した信徒叢書第二期発行計画を承認した。

これによって新しいBSA信徒叢書、表記3冊が9月に刊行されることとなった。新刊の発行は14年ぶりである。信徒叢書の創刊は1988年

用されて来た。信徒だけでなく、教会を訪れる人たちが手にする光景もよく見られる。

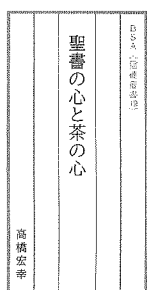
その後諸般の事情で中断を余儀なくされたが、ここ数年新刊の発行を希望する声が続々と聞かれるようになった。こうした声を受けて、信徒叢書委員会では、数年前から検討を重ねて来た。武藤六治主教はかねがね「信徒叢書はBSAにもっとも相応しい活動だ」と言っておられる。3点を同時発行

今回の叢書はBSA創立100周年記念事業として発行する。判型(新書版)および装丁は、これまでのものを踏襲する。教会での勉強会はもとより、クリスマス、イースター、結婚、誕生日、洗礼、堅信、BSA入会記念等の贈答用として活用されることを期待している。問い合わせは、BSA本部まで(月・木・金の午後)。電話:03-3436-4325 FAX:03-3432-1696 メール:mailbsa@nask.org

新刊書の概要

高橋宏幸著

『聖書の心と茶の心』

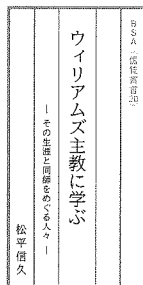


聖書に書かれていることと茶道の点前の類似点は、多くの人々が指摘している。たとえば茶碗の回し飲みと陪餐の仕方、「にじり口」と狭き門から入ることの共通点などである。

著者は、両者の類似点を形そのものよりも、その背後にある精神や心といった内側にある意味に注目。大切なことは、謙虚で素直な心、つねに自分の心を「二」に戻して、そこから始め、また、聖書を読むことだという。

松平信久著

『ウィリアムズ主教に学ぶ―その生涯と同師をめぐる人々』

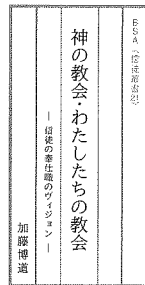


ウィリアムズ主教は、1859年来日、1908年に帰国するまでのおよそ50年、日本聖公会の成立をはじめ、立教学校や東京三三神学校および多くの教会、病院や施設の設立にかかわった。

その間、大隈重信や前島密らとの交友を重ね、莊村助右衛門、元田作之進、名出保太郎、石井亮一、筆子ら多くの人材を育成した。ウィリアムズ主教の日本の足跡と人間の大きさを描く。

加藤博道著

『神の教会・わたしたちの教会―信徒の奉仕職のヴィジョン』



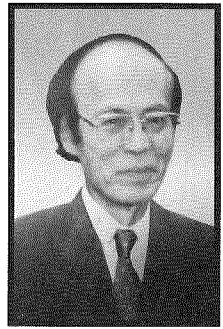
教会での牧師と信徒の関係や役割は、上下の関係で受け止められる傾向が未だに強い。「しかし」と著者はいう。「教会の活動や礼拝は聖職者のみでは成り立たない。そこに信徒が深く関わることによって成立する」と。それを英国国教会やアメリカ聖公会の例を参考にしながら、信徒の役割を問う啓発の書。(理事 タビテ吉松英美)

水害、お見舞い申し上げます

7月に入って、静岡県熱海市の土石流をはじめ、中国地方、九州南部ほかで大雨による河川の氾濫や浸水等の被害が発生しました。被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い行方不明者の救助と復旧をお祈りいたします。BSA会長 足立征三郎

松平信久君を偲んで

インマヌエル新生教会
ヨセフ 永井 寛泰



松平信久君との出会いは立教高等学校入学時に遡ること65年前。高校時代の彼は柔道部に所属し、勤勉・真面目な性格で友人も多く、学校からの信頼も厚かった。「高校生活で何より大切なのは、学友会の活動や学校行事に積極的に参加し、自ら学び、互いに切磋琢磨し、自立する力

を養うことだ」と、我々の牽引役としての学友会会長を引き受け、会の発展のために尽力したことが思い深く、記憶に残る。今にして思えば、すでにこの頃より教師や指導者の資質を備えていたのだろう。そんな彼を慕って、かつての仲間は今も付き合いが続いているが、当時のクラスメイトで特に彼と親しかったのは、同じ教会に通っていて後に司祭となった故河野裕道司祭、柔道部では荒川セントポールクラブ会長となった竹内功君、東京聖マルチン教会で活躍した故太田博之君、また学友会活動を共に牽引した府中立教会元会長岡田倫政君などだった。

な問題を抱えていた状況下において、期待と共に校長として迎えられる。若い頃より敬虔なクリスチャン、キリスト教や立教の建学の精神やその歴史などに立教の全てを知りつくした彼の就任を大いに喜んだことも記憶に新しい。当時立教高校は一貫教育と言われながらも、小学校から大学までは少ない生徒しか進学できず、高校からの推薦資格を得ても大学には行けなかったなど、保護者や生徒との意思疎通が必ずしも順調ではないと聞いていたからだ。その後立教高校は立教新座中学校の校長職を立派に務め上げ、更には立教学院全体の責任者としての院長に就任したのだが、突然そのような彼を頸椎損傷と

いう不慮の事故が襲うことになった。しかしながら、奥様や仲間が諦めることなく綿密なリハビリ計画を立て、その後の彼自身の並々ならぬ努力と懸命なリハビリを経て、多くの労作を執筆出版できるまでに回復した。我々仲間も毎年恒例の研修会を開催し、彼が準備した資料を基に学ぶ機会が与えられることを何よりの楽しみ・喜びとしていた。今年も春に、彼が翻訳したタッカー回想録が送られてきた。コロナ禍が終息すればまた集まれる。そんな希望のさ中、これが遺作となってしまった。素晴らしい仕事・実績、数々の作品を残し、これからも更なる躍進を期待されていただけに、突然の彼の死は本当に残念で惜しまれる。(元理事)

シリーズ 宣教協働区(2)

「2022年宣教協議会」

管区総主事
司祭 エッサイ 矢萩 新一

前回のシリーズ「宣教協働区」(1)では、宣教協働区と伝道教区制についての概要を記しました。今回は2022年の開催を65総会で決議しました「宣教協議会」についてです。

現在、大阪教区の磯崎久主教を執行委員長として、8名の執行委員と管区宣教主事・総主事も加わり、2022年11月4、7日に清里での開催に向け準備を進めています。近年では、敗戦後50年の節目である1995年に清里で、東日本震災の翌年2012年に宣教協議会が浜松で開催されました。

95年の宣教協議会では、「歴史、世界、社会、民衆の中で働いておられるキリストに生きる教会」を目指し、「日本聖公会の宣教―歴史への責任と21世紀への展望」という主題が据えられ、韓国とフィリピン・女性・障が

い者からの証言や環境問題からの問いかけを受け、私たちが平和の器として用いられることを願い、「日本聖公会、95宣教協議会宣言」と「日本聖公会、95宣教協議会共同さんげ」(1996年日本聖公会第49(定期)総会報告に掲載)を行ないました。この宣教協議会を受けて、「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」(日本聖公会第49(定期)総会決議第34号)が決議され、戦前戦中に日本国家による植民地支配と侵略戦争を支持・黙認した責任を認め、その罪を告白しました。「私たちの悔い改めの徴として、日本聖公会の戦争責任の告白を全教会が共有し、日本が侵略した諸国の教会に対して謝罪の意を伝え、歴史的事実の認識と福音理解を問い直し深めるための取り組みを、各教区・教会の中で継続して進めること」が明記されました。

現在、管区の委員会として、正義と平和委員会(沖縄プロジェクト、ジェンダープロジェクト、憲法プロジェクト、原発問題プロジェクト、環境問題担当、死刑制度問題担当)や、日

韓協働委員会、宣教協働者招聘委員会、青年委員会、女性の聖職に関わる委員会、女性デスント防止・対策担当者などが置かれていた根拠には、この95年の宣教協議会があります。直近の2012年に浜松で行なわれた宣教協議会では、「いのちの尊厳限らないもの―宣教する共同体のありようを求めて」という主題が据えられ、「日本聖公会(宣教・牧会の十年提言)」(2014年日本聖公会第61(定期)総会報告に掲載)がまとめられました。様々な課題を教会の大切にしてきた5要素①み言葉に聴き、伝えること(ケリユグマ)、②世界、教会の必要に答えをすること(ディアコニア)、③生活の中で福音を具体的に証しすること(マルトウリア)、④祈り、礼拝すること(レイトウルギア)、⑤主にある交わり(コイノニア)の項目にまとめられています。信徒の減少、高齢化、聖職者の不足、財政難などの課題がある中、東日本大地震と福島第一原子力発電所事故を経験し、被災者支援の働き

を行う中で、「私たち日本聖公会の宣教の原点は、教会内の牧会はもちろん、教会のある地域全体に対する牧会的働きをいねいに実践していくこと、その地域にある課題、そしてこの世界にある課題に誠実に取り組むことにある」と再確認しました。この提言し、10年後にその実りを持ち寄る宣教協議会の開催が提案されました。この提案に基づき、来年の宣教協議会の準備が行なわれています。実行委員会の中では、丁寧な牧会の実りを光として持ち寄り、隣人と共に、隣人のために働く宣教協働の推進というイメージを抱いています。そして、各教会・教区・関連施設・教役者・諸委員会宛に、2012年の宣教協議会(提言)を改めて意識した上で、2012年以降、宣教・牧会の働きの中で丁寧に取り組んできたと思われることを「1つ」教えてください、というアンケートをお願いし、日本聖公会全体の機運を高め、テーマや課題を導き出すとしているところから、2021年4月から伝道教区となった北関東教区、2024年4月の合併を目指している大阪・京都教区の動きや、話し合いを重ねている3つの宣教協働区・宣教協働委員会の動きも大きな課題になることは言うまでもありません。これまでの宣教協議会を経て、日本聖公会が何を大切にしたいのかを、少しでもお伝えできればと思います。年内には、テーマなどの詳細がお知らせできるようにと考えていますので、みなさまからも、宣教協議会や宣教協働に関するご意見やご提案の声を届けたいと思います。よろしくお願いいたします。

コロナ禍のBSA活動

昨年から続いているコロナ禍のため、BSAの諸活動が延期または中止を余儀なくされています。実態を詳しくご報告したい。

まず、BSA総会は、昨年11月の第107総会に続いて、今年2月の第108総会も書面決議による開催となった。関連の理事会・評議員会も同様に書面による開催となった。

また、総会前に、総会やBSAの運営に関する質問や意見を募った。それらに対しては、会長がまとめてVISION174号でお答えし、好評であった。毎月の理事会も昨年後半から200mを使って開催している。「支部長会議」「支部との交流」「特別委員会」「BSA100周年プロジェクト」も開催出来ない状態が続いている。

屋外・集会活動も軒並み影響。例年3月末に清里で行う青少年キャンプは、感染予防の観点から2年続けて中止した。BSAセミナーも昨年に続いて、今年度も開催の目処が立っていない。テーマは、昨年同様「来日宣教師群像と教区形成過程―米・英・加ミッションの特色と日本聖公会」。5月の開催を予定したものの、新型コロナ感染拡大防止のため、セミナーも

それに準じて開催を見送った。オンラインによる開催も担当者レベルでは検討したもの、講師の松平信久先生が「オンラインでやるつもりはない」とのことだった。今年開催出来なければ、このテーマでの開催は打ち切ることとした。しかし、会員およびこれまでBSAセミナーに参加した人たちのための、このテーマに対する期待と関心は大きく、「中止」した場合の代替案を検討している。

健闘するVISIONと 叢書委員会
こうした中で健闘しているのが、機関紙VISION編集部と信徒叢書委員会である。VISIONは、コロナウイルス騒動がすでに始まっていた昨年2月発行の第169号以降今年4月発行の第174号まで遅滞なく発行を維持している。信徒叢書委員もVISION編集委員も同じメンバーなので、委員会を同日に行うことが多い。最後の叢書が発行されてから14年ぶりに、今年新しい叢書が3点発行される。編集委員会を何回も開いて、著者や内容の検討を行う傍ら、並行して出版やデザインに詳しい人を探した。さいわいに日本聖公会の二人の方が協力してくれることになり、長いトンネルの向こうに小さな光が見えてきた。仕事が確実に信頼できる印刷所を求めて、京都や大阪の業者に当たったこともある。みなさんのお手元にインクの匂いのする新作をお届け出来る日は近い。(理事 ダビデ吉松英美)

今年度のBSAセミナーを中止
2021年度のBSAセミナー「来日宣教師群像と教区形成過程―米・英・加ミッションの特色と日本聖公会」は、講師の松平信久氏ご逝去のため、中止いたします

BSA創立100周年記念
ロゴマーク決定

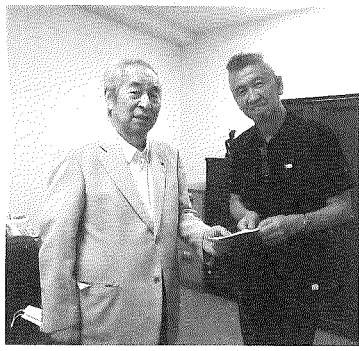


2027年、BSAは創立100周年の記念の年を迎えるに当たり、「記念ロゴマーク」を一昨年に募集を開始し、昨年7月に締め切りました。全国から多くの作品が寄せられました。コロナ禍の影響でその後の作業が中断されていましたが、この度開催された選考会で福永澄兄(BSA会員・聖公会神学院神学生)の作品が選ばれました。

このロゴマークは、BSAホームページをはじめ、BSAの発行物、封筒・名刺などに順次使用されます。

今回の企画に応募された会員等各位、ご協力いただいた方々、殊に選考に当たり専門的な助言を賜った蘆田信裕兄(BSA会員・柏聖アンデレ教会)に深く感謝します。

先日、足立会長と島崎理事が神学院に入選者福永兄を訪ねて祝意を述べ、賞金を手渡ししました。(ロゴマーク担当島崎敏彦)



BSA理事会開催報告

1月25日(月)オンライン会議
VISION173号の発行

100周年ロゴマーク選考報告
BSAセミナー経過報告
第108総会・議案書確認
2020会計収支決算案審議
2月26日(金)オンライン会議
第108総会議案審議
休止中の支部について
新評議員選任・倉辻明男兄
特別委員会の今後について
3月29日(月)オンライン会議
VISION174号の発行
東京教区教区会報告
今年度の事業活動の進め方
支部活動について検討
4月23日(金)オンライン会議
信徒叢書発行計画承認
VISION175号の報告
ロゴマーク最終選考結果報告
今年度事業活動の進め方
理事の担務について
5月24日(月)オンライン会議
宣教協議会アンケート対応
「本部だより」(30号)について
BSA100周年記念取組み
6月21日(月)オンライン会議
宣教協議会アンケート対応
KEEP協会評議員会報告
第109総会の開催について
BSAセミナーの中止を了承
評議員に倉辻明男兄

半世紀も前にBSAの大先輩である故佐藤六郎さん宅で始められた家庭集会是千葉県柏市北部に賃貸の拠点が与えられ、30年前に開所記念礼拝が行われました。その後、我孫子市に敷地を得、牧師館等を含む教会の器が備えられ、やがて伝道所を経て教会として認可されました。

この度、開所30周年、教会設立15周年を記念する感謝聖餐式が5月15日(土)に入江修横浜教区主教の司式・説教、大野清夫司祭(管理牧師)の補式によりささげられました。入江主教は、聖霊降臨の出来事まで遡る2千年の歩みの一つとして、この30年間の恵みと祝福に、共に感謝し、主のみ名をほめ讃えたいと奨励されました。

今回はあいにくのコロナ禍で多くの参列者が共に集うことは避け、初めての経験ながらリモート方式(ZOOM)で記念礼拝とそれに続くオンライン祝いの模様を配信しました。

当日、直接礼拝に出席した柏の信徒は23名、ZOOM経由で参列された方々は教区内外(米田、中国を含む)から約80名でした。BSA会員等も多数加わって下さり、ありがとうございます。(北総支部 萩谷長生)

千葉復活教会に信徒叢書がもたらされたのは大分前のことです。倉石昇兄よりプレゼントとして手にしたのが最初です。その後何冊かプレゼントされました。私が購入したのは数冊です。信徒叢書を勉強会などに用いたことはありませんが、倉石兄が教会内で多くを配布されているのを目にしております。

千葉復活教会はBSAのメンバーを中心としたアブラハム会という会があります。現在の会長は倉石昇兄。毎月第2主日礼拝後、会が開かれます。

4年ほど前に、教会の図書とは別に、会が管理運営する図書室を作ろうという提案があり、各人が信仰に役立つ書物、信徒に読んで欲しい本などが寄贈され、アブラハム会の図書室として会館内に設置されています。

図書室と言っても大袈裟なものではなく、本棚の一部を借りて、何十冊か収納されています。

BSA発行の信徒叢書も含まれており誰もが自由に借りて読むことが出来るようになっていきます。又、教会の何かのイベントのある時には入り口の机に並べられる時もありますし、バザーの時には信徒叢書の販売はBSAの会員が担当し、バザーの時の定番の一風景です。

支部だより

柏聖アンデレ教会で
開所30周年記念礼拝



礼拝後に全員で
(右下テレビ画面 ZOOM 参加者)

信徒叢書のある風景(8)

千葉復活教会
ヨハネ 池田 稔

千葉復活教会はBSAのメンバーを中心としたアブラハム会という会があります。現在の会長は倉石昇兄。毎月第2主日礼拝後、会が開かれます。

4年ほど前に、教会の図書とは別に、会が管理運営する図書室を作ろうという提案があり、各人が信仰に役立つ書物、信徒に読んで欲しい本などが寄贈され、アブラハム会の図書室として会館内に設置されています。

図書室と言っても大袈裟なものではなく、本棚の一部を借りて、何十冊か収納されています。

BSA発行の信徒叢書も含まれており誰もが自由に借りて読むことが出来るようになっていきます。又、教会の何かのイベントのある時には入り口の机に並べられる時もありますし、バザーの時には信徒叢書の販売はBSAの会員が担当し、バザーの時の定番の一風景です。

中道を歩むとされている聖公会ですが、信徒叢書の歴史などを読むと他の教派との違いを際立たせていると感じさせられます。他にBSAのメンバーが中心となってスウェーデン方式による聖書勉強会も第3主日に行われます。

コロナ禍の中、全ての会の活動は中止に追い込まれ、今はただ、身を潜めてコロナ禍の過ぎ去るのを待っている状況です。(房総支部長)

BSAの誇りと宝―信徒叢書

千葉復活教会
パウロ 永田 保信

本年7月発行の本紙に、従来よりBSAが力を入れていた叢書にまつわる記事が掲載されており、皆様の多くも深い関心を寄せられたことと思います。

「千葉の信徒の皆様、これからは一緒に信仰の成長に励んでまいりましょう。私たちの肉体はいずれ衰えてゆくにしても、イエス様の御跡に従って行けば、信仰心はいつまでも成長し続けるのです」と。

「千葉の信徒の皆様、これからは一緒に信仰の成長に励んでまいりましょう。私たちの肉体はいずれ衰えてゆくにしても、イエス様の御跡に従って行けば、信仰心はいつまでも成長し続けるのです」と。

「千葉の信徒の皆様、これからは一緒に信仰の成長に励んでまいりましょう。私たちの肉体はいずれ衰えてゆくにしても、イエス様の御跡に従って行けば、信仰心はいつまでも成長し続けるのです」と。

「千葉の信徒の皆様、これからは一緒に信仰の成長に励んでまいりましょう。私たちの肉体はいずれ衰えてゆくにしても、イエス様の御跡に従って行けば、信仰心はいつまでも成長し続けるのです」と。

「千葉の信徒の皆様、これからは一緒に信仰の成長に励んでまいりましょう。私たちの肉体はいずれ衰えてゆくにしても、イエス様の御跡に従って行けば、信仰心はいつまでも成長し続けるのです」と。

「千葉の信徒の皆様、これからは一緒に信仰の成長に励んでまいりましょう。私たちの肉体はいずれ衰えてゆくにしても、イエス様の御跡に従って行けば、信仰心はいつまでも成長し続けるのです」と。

「千葉の信徒の皆様、これからは一緒に信仰の成長に励んでまいりましょう。私たちの肉体はいずれ衰えてゆくにしても、イエス様の御跡に従って行けば、信仰心はいつまでも成長し続けるのです」と。

★一般ご家庭の引越 事務所引越
★オフィスの引越
★フロアーの移動 のエキスパート!!
★各種展示会セッティング etc...
GTEC 株式会社ギンテック
港区港南3-4-12
TEL 0120-223-008
TEL 3471-5313

ホームメイド・チーズケーキの店
CHEESE CAKE JOHANN
HOME MADE
和田博子
目黒区上目黒1-18-1
TEL 3793-3503

立教企画グループ
学校業務受託、人材派遣等承ります。
株式会社 立教企画
株式会社 立教オフィスマネジメント
株式会社 立教ファシリティマネジメント
株式会社 立教ライブラリーマネジメント
http://www.rikkyo-planning.co.jp

求人・求職は
オフィスカネコ(株)
(有料職業紹介許可 14-ユ-300917)
代表取締役 金子 眞
携 帯:090-3428-1938
E-mail: mk8391@triton.ocn.ne.jp

ポール・ラッシュユから 受け継ぐもの(4)

北海道教区主教
ナタナエル 植松 誠

私は1952年、清里で生まれました。当時清里駅から清泉寮に登る道は、舗装されていなくて悪路で、雨や雪が降るとぬかるんだりすると、聖路加診療所のジープは上下左右に大きく飛び跳ねました。

私が住んでいた清里聖アンデレ教会(写真)では、毎週水曜日、朝6時の聖餐式に続いてBSAの例会が持たれていました。村の青年たち、キープの職員たち、立教から清里に勤労奉仕に来ていた人たちが、元気に聖歌を歌い、聖書を学び、祈って、大声で議論をし、ご飯と沢庵、またはパンと沢庵だけの朝食をとってそれぞれの働き場に散っていくのを私たち子どもは見送ったものでした。そこにはポール・ラッシュユさんもいました。



皆が貧しい時代でした。でも、このBSAの熱気は私の人生に大きな影響を与えたように思っています。

幼い私にはポールさんがどのような人かは分かりませんが、たが、牧師であった父と医師であった母がいつも「ポールさん、ポールさん」と親しく呼んでい

たことから、彼らにとってとても大事な仲間だということは感じていました。

それから20数年後、私は米国に留学し、主にオクラホマ州とテキサス州で学びました。米国でも田舎にあたるこのような地で、私はポール・ラッシュユの名前をあちこちで聞きました。ポールさんがこのようなところにも訪ねてきたというのです。

また、ポールさんから手紙をもらったという人もたくさんいました。来訪や手紙の目的はすべて募金でした。つまり、清里を中心としたキープのための献金を求めて、このような米国の田舎まで行脚していたのです。暇さえあれば米国の諸教会や有力者に手紙を書き続け、また自分の足で米国中を駆け回って講演し、日本のための募金を訴え続けたのでした。

2006年6月、米国オハイオ州コロンバス市で開かれた米聖公会第75回総会に日本聖公会首座主教として参加した際、私はキープ協会アメリカ後援会の集まりに出席しました。ポールさんが亡くなって27年も経っているのに、ポールさんの日本宣教への情熱は多くの人々に強烈な印象として憶えられていることに私は深い感動を覚えたものでした。

日本聖公会の歩みの中でも、特に戦後の復興におけるポールさんの功績は多岐にわたります。戦争中、戦争遂行の国策に協力した日本聖公会は、敗戦後、立ち直ることができないほどの窮地にありました。その時、GHQの高官として日本に戻ったポールさんは、その立場を駆使して日本聖公会の復興に尽力しました。欧米の諸教会との繋がりや再構築するための仲立ちとなり、日本の隅々の教会まで援助物資を調達し、それらのお陰で日本聖公会は再び立ち上がる事ができたと言えます。

これらのことの背後にあった

ポールさんの信仰的情熱に圧倒されます。自分の誉れのためではなく神の栄光のために、この世で約束されたであろう名誉や地位を捨てて、ひたすら日本の宣教、特に青年たちに福音を伝える尊さを伝えるために一生を捧げたポールさんの情熱や祈りの遺産として、今、私が、そして日本聖公会が生かされていることを深く思います。

(日本聖公会前首座主教)

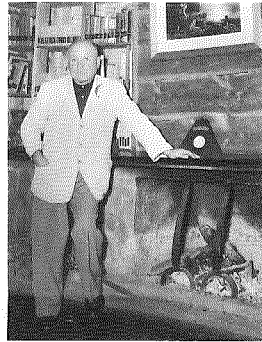
ポール・ラッシュユ 60代の写真

理事 ダビデ吉松英美

真を武藤六治主教から預かりました。60歳を過ぎた頃のものだそうです。

旧清泉寮の焼失が1955年。2年後の1957年に現在の清泉寮が完成しました。

ポールは、1897年生まれです。1957年はちょうど60歳にあたります。



清泉寮本館で撮影したものです。暖炉の煤の黒さからみて新館完成数年後の写真でしょう。右手をポケットに突っ込み、左手を暖炉の上に置いて、じつとこちらを向いています。得意のポーズでしょう。武藤主教によるとポールの写真では一番のお気に入りだという事です。



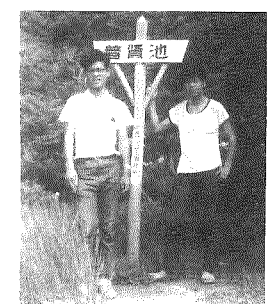
兄・松平信久のこと —思い出すままに—

ヨハネ 松平謙次

兄・松平信久は1941(昭和16)年3月3日、当時の東京府北多摩郡府中町で生まれました。幼少期から小児喘息に悩まされ、高校では体質改善の期待もあり、柔道部に入学しました。見かけも実際もとても頑強とは言えない体つきでしたが、黒帯を取るまでは頑強と言った。やがて講道館初段を取りました。この辺りにも意志の強さは現れているようです。高校柔道部の仲間の結束は固く、生涯親交が続きました。

その後の人生・生き方を見ても意志や使命感の強さは生涯変わりませんでした。小学校の教員になることを志し、大学は教育学科を選びましたが、やがて僻地の教育に携わりたいという希望を強く持つようになり、卒業と同時に東京都の「鳥も通わぬ」と言われた八丈島の、さらに先にある八丈小島という孤島に赴任しました。人口は200人足らず、電気も水道もガスもない僻地でした。もちろん無医村ですから、もし盲腸炎にでもなったら大変と考え、島に渡る前に盲腸を取り除く手術を受けました。手術した医師は「こんな患者(?)は初めてだ!」と驚いたとか、呆れたとか。

八丈小島の教員時代の事で私が直接知っているのは「修学旅行」です。中学3年生になると普通修学旅行があります。島の中学校にはそんなものはないかと思えます。兄は何として鳥の中学生に修学旅行に東京見学を経験させたいと考え、敢行しました。貧しい島の子どもにとって最大の問題はもちろん費用の事でした。そこで兄は宿舎は宿泊費ゼロの川越の教会(当時、父が司牧)の牧師館、食事は同じく無料の母の手料理ということにしました。今はや



信久(左)と私。島に渡った最初の夏休みに九州旅行

りの「民泊」のはしりだったわけですが、初めて島を出て数日間大都会・東京を見学した子どもたち(たぶん4〜5人だったと思います)にとつて、この修学旅行はどれほど強いインパクトがあったかは想像に難くありません。残念なことに一民宿・川越教会の食事は、母が精一杯作ったにもかかわらず、子どもたちにはあまり好評ではなかったようです。理由は主食が白米と雑穀だったため、白米は口に合わなかったらしいのです。

兄が赴任して数年後に、島の運命を変える出来事が起きました。島の人々は貧しさと将来展望のなさから全員投票によって全員が離島することを決定したのです。当然兄は職場を失うことになりました。それを聞いた大学の恩師の教授は大学に戻ってくるように声を掛けてくれ、兄はその後大学に身を置くことになりました。助手から助教授、教授、後に中・高の校長、学院長を務めますが、私は兄の教育者としての原点は僻地教育に取組もうとした若き日の理想と情熱にあつたと思います。

また兄の人となりというか、行動の原点を示す活動に、困難な状況にある子どもたちへの働き・支援がありました。立教大学在学中は子ども会とか日曜学校などの児童宗教活動を中心とする立大BSA第2支部に所属していました。大阪にある児童養護施設・聖ヨハネ学園を毎年訪問していましたが、卒業後は立大の学生以外にも輪を広げ、この学園の子どもたちを支援するようになりました。

立教学院の院長であつた2007年、不慮の事故によって頸椎を損傷する大怪我を負い、手先指先の自由が奪われ、身体各所に痺れや痛みが現れるようになりました。しかし実に多くの方々の支えや助け、励ましによって強い意志と使命感を失うことなく、さまざまな役割と責任を果たしてきました。

兄は晩年短歌を作るようになりました。兄にとつては妹、私にとつては会ったことのない愛子という姉がいましたが、終戦直前に3歳になったばかりで亡くなりました。戦時下、十分な手当でもできないまま可愛い盛り娘を亡くした母や父の悲しみはいかほどだったか、察するに余りあります。父はこの娘を悼んで短歌を二首詠みました。その何十年か後、一昨年兄はNHK短歌に応募して入選したことを知らせてくれました。

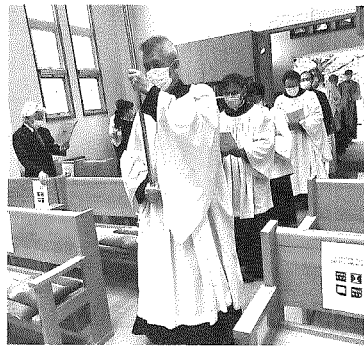
錆び釘を伸ばして父は妹の棺をつくりぬ敗戦の夏という歌です。今頃あちらの世界で、ちよつと照れくさそうな顔をして父や母と語り合っているかもしれない。

この3月、呼吸困難になり病院に救急搬送され、2か月後の5月20日、間質性肺炎のため80歳で息を引き取りました。コロナ禍の下、入院中会うことも言葉をお互いに交わすこともできないうちに逝ってしまったことは残念でなりません。兄としては人生という馳せ場を全力で走り切った、悔いのない生涯であつたらうと信じます。

最後に蛇足ですが、私は兄への呼びかけとしても他の人との会話の中でも「兄貴」という言葉を使ったことがありません。親しみを持っていないからか、偉い人であつたからか、その「偉い」人であつたからか、淋しくなります。(理事)

神学校の入学式

聖公会神学院の入学式が4月6日(火)行われ、本科生にパウロ中山泰男兄(九州教区)、召命コースにルシア小河佳子姉(北海道教区)が入学した。



新型コロナウイルス感染症対策のため、出席者は関係者のみで行われた。

昨年新しく聖公会神学院理事長に就任した武藤謙一日本聖公会首座主教は、説教で「聖職志願者、聖職者の減少について主教会でも検討していますが、残念ながら妙案はありません。そうした中で、今日3名をお迎え出来、主に感謝します。

昨年ここを卒業した九州教区の島優子さんは、神学院での3年間を振り返り、「勉強はきつかったけれど、出来ることならもう一度戻りたい気持ちです。」と言っていました。

神学院生活は、このようにある意味では恵まれているといえます。志を同じくする仲間と祈り、支え合う、人生でも特別な時間と場所です。

自らの召命を揺さぶられることもあるでしょう。信仰を試され、壊され、再構築されることもあるでしょう。大事なことは、イエスの愛に

とどまり、溢れるばかりの愛を感じることで。イエスから「わたしを愛しているか」と何度も問われます。イエスのチャレンジにどう応えるかです。

神学院生活が、イエスに十分愛されている喜びを感じ、イエスを大切に、互いに愛しあひ、助け合う日々となることを祈ります。と饒の言葉を述べた。

名オルガニスト岩崎真実子先生のオルガン演奏が出席者の気持ちを新たにしていた。

また、京都のウイリアムス神学館でも、4月7日(水)に入学式が行われ、クララ小野恭子姉とエステル平良子姉(共に京都教区)の二人が入学した。

熊本聖三一教会

令和3年4月6日、聖公会神学院の入学礼拝で入学が認められました。

厳肅な空気と鐘の音が響く中、新たなスタートを切ったという感覚に包まれ、興奮が夜まで続きました。

感謝祈禱の中に、「常に主にある愛と謙遜の心を保たせて下さい。」という一文があり、自分に足りないものはこれだと、気が付きを得ました。

私は17歳で指定難病である「クローン病」を発症し、この40年間で入院40回以上、仕事(アルバイト含む)は20職以上を経験しています。

振り返れば、生きるために仕事をせよと必死でした。力量も知識も足りないのに、ただ我武者羅に走り回る。見栄っ張りではない人間でした。

しかし、「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」(マタイ20:16)の聖句と出会い、次第に人生観が変化して行きま

した。神様は、働いた時間だけでなく、仕事をせよと期待して待ち続けた時間をも公平に見て下さる。

また、影響を受けたのは、ハンセン病患者療養施設「熊本回春病院」の創設者、宣教師リデルと姪のライト両女史の生き様です。ミッションに身を奉げ、患者らと共に納骨堂に安置されています。入り口に「神の用なり」(マタイ21:3)の聖句が掲げられています。

この機会を与えて下さった九州教区の諸兄姉と、応援してくる家族には、感謝の言葉しかありません。

神様の言葉を伝えられる聖職者を目指したいと思えます。

旭川聖マルコ教会

聖公会で洗礼を受け10年も経っていません。そんな私がこうして神学院で学ばせて頂いていることが不思議でなりません。

昨年、広谷司祭から「信徒召命コース」があるので考えてみませんかというお話を頂き感謝でした。ただ、しなければならぬ課題も何点かあり、即答することとは出来ませんでした。

しかし、それらの課題も時間の経過と共に一つ一つ解決されていきました。

以前から、退職したらこれ迄できなかった教会での奉仕の仕事をしたいと願っていました。神学院で学ぶことはそのための準備を神様が与えてくださったのだと思います。

どの様な授業があるのかわかりませんが、聖書をもっと深く学びたいという思いが以前からありましたので、じっくり聖書と向かい合いたいと思います。

会費納入のお願い

BSAの運営は皆さまの会費、賛助会費を財源として賄われております。会費納入にご協力のほどよろしくお願いいたします。同封の郵便振替用紙をご利用ください。その他、銀行振込みでも承っております。

郵便振替口座

0017005187165

銀行口座

三菱UFJ銀行 虎ノ門支店 普通預金 4057002 一般社団法人

日本聖徒アンデレ同胞会 (イッパンシヤダンホウジンニホンセイトアンデレドウホウカイ) 銀行振込みの際は、お名前の前に宛名ラベル右下の番号の下4桁を入力してください。

「VISION」文芸

野田 徹

萩谷長生

人知れず今年も咲けり水芭蕉 残雪が田んぼに映える里景色

ワクチンの行きわたりたる夢をみる

雲辺(松岡正治)

雲の峰コロナの所為で会えぬ人

紫陽花やシルバースでで行ける処

葉桜や席譲られて胸熱し

救急の凜々しき人や明易し

家並みは昔のままや蜂生る

(寄稿)兄松平信久のことを読んで 逝きし人賢兄ゆえに弟は 「兄貴」と呼ばぬ所以明かせり

鶯が季節外れに庭に来て 梅雨の気息さしばし吹き消す

福島の原発の傷いつ癒える 戻らぬ住民戻れぬ住民

割烹着のまま埋もれて十年間 生きてわれらは何していたのか

教皇が動けばすなわちニュースなり アブラハムの地ウルに旅する

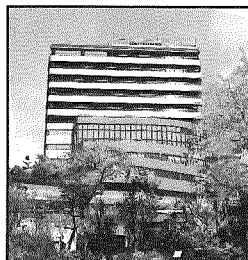


聖路加フレンズは、健やかなところとからだをつくるための 会員制健康クラブです

☎ 03-3541-1056

受付時間 平日9:00~16:00 (土・日・祝日を除く)

株式会社聖路加コーポレーション 聖路加フレンズ事務局 https://www.stlukes-friends.com/



創立の恩人 ポールラッシュ 学校法人メイウシヤマ学園

ハリウッド大学院大学 ハリウッド美容専門学校

〒106-8541 東京都港区六本木6-4-1 六本木ヒルズハリウッドプラザ

☎ 0120-083394 www.hollywood.ac.jp

清里高原だより 清泉寮ニユース

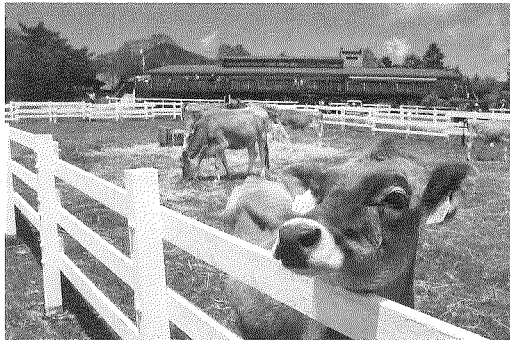
夏の清泉寮で自然散策を

●ジャージー牛の仔牛を間近で見られるパドックを新設

丑年の2021年、ソフトクリームを販売する清泉寮ジャージーハット前にジャージー牛を間近で見られる放牧用の柵(パドック)を新設し、週末を中心に仔牛の放牧をはじめました。

清泉寮ジャージー牧場では現在120頭ほどのジャージー牛を飼育しておりますが、普段は東京ドーム15個分にも及ぶ広大な敷地で放牧されているため、お立ち寄りの方にはなかなか出会う機会がありませんでした。

今回新設されたパドックは、お客様に最も距離の近い放牧地となり、牧柵を挟んで生後12カ月〜24カ月以内のジャージー牛の仔牛達と一緒に写真を撮ることもできるようになりました。今年の夏はぜひかわいい仔牛に会いにお越しください。



●ヒマラヤの青いケシが開花！特別ガイドツアーを開催

「ヒマラヤの青いケシ」こと、「メコノプシス(英語名:ブルーポピー)」が鮮やかな青色の花を咲かせました。メコノプシスは、標高3000〜4000mのヒマラヤ地方や中国西南部などの冷涼な高山地帯を原産地とするケシ科の植物で、暑さに弱く、標高や気候などの条件が整わないと生育が難しいため「幻の花」とも呼ばれています。

清泉寮では2009年に始めて花を咲かせて以来、試行錯誤を繰り返しながらも栽培を続け、今年は約200株ほどが約3週間程度かけ順次開花し、神秘的な青色で、訪れたお客様の目を魅かせていました。

清泉寮では、宿泊者や立寄りのお客様を対象とした特別ガイドツアーを行い、多くの参加者を集めて好評を得ることが出来ました。



●夏の森のおすすめ

標高1400mの清泉寮周辺は、朝夕こそまだまだ涼しいのですが、日に日に森は緑の色を深めており、夏の日差しを感じられる季節が訪れています。

八ヶ岳の山岳地帯は高山植物の宝庫として知られ、夏は「ウツボ草」や「フジアザミ」、種のはじける「ツリフネソウ」など多くの山野草や樹木の花が咲き誇り訪れる人をお迎えします。野生動物はニホンジカ、キツネ、リス、ニホンカモシカなどが棲息し、野鳥は100種類以上、「オオルリ」や「キビタキ」などの夏鳥の囀りで賑わいます。

この夏は命溢れる清泉寮の森で、のんびりとした時間を過ごしてはいかがでしょう。その際にはぜひ、八ヶ岳自然ふれあいセンターにお立ち寄りください。

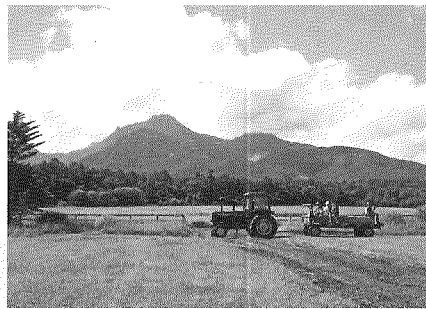
森のスペシャリストの自然案内人(レンジャー)が楽しみ方のご案内をいたします。無料のガイドウォークもご用意です。

○森のガイドウォーク
日時:土曜(14時〜15時、日曜(11時〜12時)
場所:山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター(0551-4812900)
料金:無料 ※予約が必要です

●夏のヘイライド運行

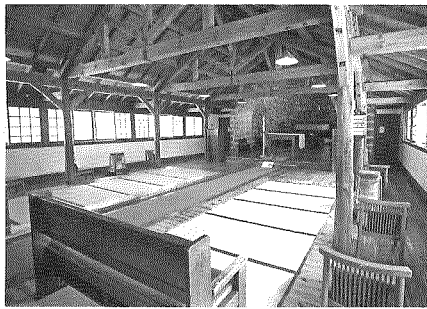
牧草を積んだ荷台に乗り、トラクターに引かれて牧草地をのんびりとドライブする「ヘイライド」を今年も運行いたします。草原を渡る風を感じながら、普段は入れない広大な牧草地から見渡す3000m級の山々を望むパノラマは格別です。ド迫力のトラクターですが、運行はゆっくりなので、小さいお子様でも大丈夫です。未就学児は無

料ですので、ぜひともご家族で遊びに来てください。
場所:清泉寮ファームショップ横の牧草地(予定) ※雨天中止
料金:お一人様500円(税込)
未就学児は無料



●清里聖アンデレ教会の畳と中央絨毯の張替え

清泉寮の敷地内にある、日本聖公会清里聖アンデレ教会の畳の張替えと中央絨毯を交換いたしました。素朴ながら荘厳な石造りの聖堂に立つと、窓からの爽やかな風と共に、新しい畳の香りがします。ぜひ祈りの場としてご利用ください。



※新型コロナウイルス感染症の影響で、店舗の営業時間や、イベント等に変更になる場合がございます。清泉寮ホームページで、最新情報をご確認ください。

BSA信徒叢書

聖公会という名の教会(一) 竹内 寛著

聖公会という名の教会(二)(三)(四) 今井泰治著

奇跡は語る 竹内 寛著

復活 竹内 寛著

聖書に聴く(一)(二)(三) 速水敏彦著

キリスト教史―古代 菊地栄三著

キリスト教史―中世・現代 菊地栄三著

十字架 竹田 眞著

サクラメント 竹田 眞著

礼拝一口メモ(一)(二) 竹内謙太郎著

わたしたちの「祈禱書」 森 紀旦著

米国聖公会(一)(二) 飯田徳昭著

以下、新刊(9月に発行の予定)
聖書の心と茶の心 高橋宏幸著

ウィリアムズ主教に学ぶ 松平信久著

その生涯と同師をめぐる人々 加藤博道著

神の教会・わたしたちの教会―信徒の奉仕職のウイジョン

寄贈図書案内

「自閉症療育の

コペルニクスの転回」

社会福祉法人 萌葱の郷

理事長 五十嵐康郎 著

発行 萌葱の郷

発行 学術研究出版

発売 (税込)1,650円

訃報

アンデレ 西川克夫兄 (84歳) 3月1日逝去

(奈良基督教教会)

ロバート 和田 明兄 (86歳) 4月12日逝去

(藤沢聖マルコ教会)

評議員 ヨセフ 松平信久兄 (80歳) 5月20日逝去

(聖愛教会)

セシリア 波多野春子姉 (92歳) 6月20日逝去

(立教学院諸聖徒礼拝堂)

編集後記

「三度目の正直」否、「二度あることは三度ある」。それが東京には4度目の緊急非常事態宣言とは…。オリンピックはさておき、再開されたばかりの平日礼拝が気になるところで、ワクチンはもうお済みですか。

巻頭言を神学院元校長の広谷和文司祭にお願いしました。顕現節に読まれたマルコによる福音書1章29〜34節を読み直すと、「B年の光景」が鮮明に目に浮かびます。

京都のウィリアムズ神学院には小野恭子、平良良子の両姉が入学されました。聖公会神学院入学の中山泰男兄、小河桂子姉を含めて4名の神学生に編集部よりメールを送ります。(N・H)